

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第1学年は、地理的分野・歴史的分野ともに基礎知識の定着が十分に図れていた。特に、歴史的分野では戦国・江戸時代の知識に関して、定着度が高かった。
- ・第2学年は、地理的分野・歴史的分野ともに基礎知識の定着が十分に図れていた。特に、地理的分野では世界・日本の姿の知識に関して、定着度が高かった。
- ・第3学年は、「明治時代」の学習において、単元を貫く課題を設定した授業計画を行い、毎時間のレポート課題に取り組んだ成果が見られた。

(2) 課題

- ・第1学年は、歴史的分野では、古代の日本に関する問題や明治時代の基礎知識の定着に課題がある。また、地理的分野では、世界の中の日本、日本の食料生産で問われたような「複数の資料から判断する問題」に対して課題がある。
- ・第2学年は、地理・歴史的分野の各単元で、基礎知識を図る問題に加え、様々な知識を関連付けて思考させる機会を設定することの必要性を感じた。
- ・第3学年は、既習事項の学習内容に対し、1学年や2学年前半に学習した内容の定着が不十分であった。単純な知識を問う問題に加えて、知識を活用する機会を作る必要性を感じた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	目標値を達成できた分野. 単元と達成できた分野単元に大きな開きがあった。		
第2学年	歴史的分野のすべての問題内容で区の目標値を下回った。一方、地理歴史分野の門内内容では目標値をほとんど上回った。	目標値をおおむね達成できた。歴史的分野の基礎理解と地理的分野での思考・判断において、さらなる向上が目指せる。	
第3学年	地理分野・歴史分野共に目標値を上回った。	地理分野・歴史分野共に目標値を上回った。	目標値に達していない分野が多く、特に歴史的分野での課題が目立った。社会科の学習に対して主体的に取り組む姿勢が十分ではなかったと考えられる。

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	歴史的分野の古代の日本に関して、基礎知識が不十分である。 公民分野の正答率は高く、理解度は高い。	思考・判断の力は知識、技能の観点と比較すると正答率が高い。	数値は全体的に低い。 この観点の得点が低い生徒は、知識・技能の得点も低い傾向にある。
第2学年	歴史的分野の中世の日本に関して、基本知識が不十分である。 地理的分野の世界・日本の姿に関して、正答率が高いことから理解度は高い。	地理的分野の世界の諸地域に関して、目標値を下回り、その他の領域については正答率が低く、思考・判断の力が不十分である。	昨年度に比べて、数値は全体的にやや高い。 この観点の得点が高い生徒は、他の観点での得点も高い傾向にあり、無解答も少ない。
第3学年	第1学年で学習した内容の定着が不十分である。 第2学年後半で学習した内容は正答率が高い。	問題文が長い設問と、複数の資料を用いた問題において、極端に正答率が低い。	正答率が二極化しており、この観点の得点の高い生徒は、全体的に平均点が高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	地理的分野、歴史的分野ともに授業中に重要語句の確認を毎時間行い、関連付けを行っていく。 地理的分野では、諸資料の読み取りを指導し、表現できるように取り組ませる。	歴史的分野では、時代ごとの関連をもたせた考察、探究活動を行っていく。 地理的分野では、世界の中での日本、日本の農業の基礎知識を基に地域的な特色が考察できるように取り組む。	身近な社会的な事象との関連をもたせ、生徒の興味・関心を高めつつ、様々な諸資料を提示して考える素地を養う。 適宜、ICT機器を教員だけでなく生徒にも活用させ学習意欲の向上に努めたい。
第2学年	基本的な知識を整理させるため、一問一答テストなどを行い、基礎学力の定着を図る。 複数の資料を関連付けて読み取る問いを、ワークシートに取り入れ、資料活用能力を養う。	単元ごとに課題を設定し、身に付けた知識を活用して自分の考えをまとめることや発表することに重点をおいた指導を行い、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。	生徒の関心意欲を高めるために、ICT機器を活用して、様々な写真や資料を提示したり、生徒が主体的に調べたりする機会を多く設定し、生徒の学習に対する意欲の向上を図る。
第3学年	基礎学力の定着を図るため、知識の活用が必要な課題を設定する。 表やグラフを読み取る計算についても取り組んでいく。	複数の資料を用いた問題に対する演習を行う。 タブレットを活用し、意見交換をスムーズに行える学習ツールを活用する。	問題演習において、生徒自身が課題を見つけ取り組めるような計画を立てる。繰り返し演習を行えるよう、計画的に取り組む。